

2017.11.12

愛知版 No.411



* 今月の花 つわぶき (石蕗)

川越唐人揃い
11月12日

愛知勢、ガンバル！

自前の衣装 も駆使

【写真】

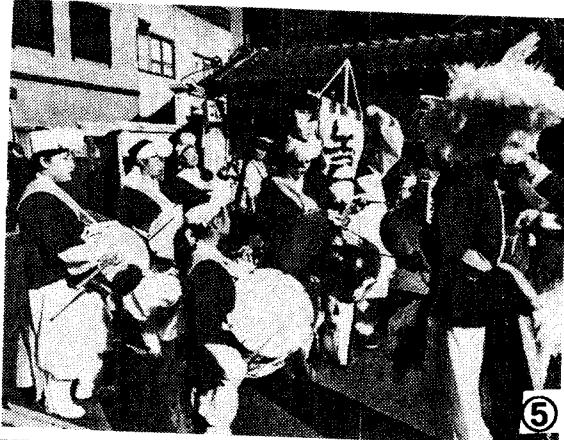
- ★埼玉『川越唐人揃え』祭りで
- ①「現代の朝鮮通信使あいち」製作の
通信使衣装をまとって勢ぞろい
- ②愛知勢の行列
- ③翻る『雲竜旗』（平山さん作）
- ④全国から集まった行列参加者に、愛
知の『正使』役がプレゼン
- ⑤行列盛り上げた、愛知の『ノリパン』
グループ
- ★⑥名古屋での通信使衣装づくり



④



①



⑤



②



⑥



③

【写真データ協力＝平山さんほか】

祝『世界遺産』登録

朝鮮通信使の日光道中（上）

若松 實・訳『任統丙子日本日記』より

★『任統丙子日本日記』(1636)は韓国側がユネスコ世界遺産・朝鮮通信使「旅程の記録」分野の一件として申請し、登録されたもので、三度なされた朝鮮通信使日光道中の、最初の記録である。

仁祖十四年（一六三六／寛永十三）十二月

十七日 晴。江戸の本誓寺【注／当時、日本橋・馬喰町】にありに逗留する。義成が来て、

「昨日閑白が申されるには、（先に）国王の命を伝える時に、

私は使臣たちが日光遊覧を応諾して下さつたことに対し、

使臣たちに既に感謝の意を表したので、使臣たちには私の

真心を必ず知つておられるはずである。いま執政伊豆守を

送り、全路程を取り締まり、先導するようにしたので、お

前はこの意を使臣たちに伝え、明日か明後日の間に出発な

さるよう（に要請せよ）とのことでありました」と言つた。

我等は答えて、

「先に閑白にお目に掛かつたとき、親しく自ら感謝の意

を表されたので、閑白の真心はよく分かりました。しかし

其處へ行つた後で、もし難事があるようになれば、決して

行くことはできません」と言うと、義成が答えて、

「私は萬里の道をお伴して來たので、使臣の申されることはよく分かりますが、どうして少しでも欺きましようか。

今回のことは専ら使臣たちを尊敬して、國を挙げて光榮と

して誇る心から出ただけであり、決して他事がないことを

保証いたします」と言うので、次いで道程の里数を尋ねると、「近道なら一日の行程に満たないし、大路ならば三日の

道程です」と答えた。我等が、「一日・二日でもまた既に遠いのに、ましてや三日とは、宜しく近道を取るべきである」と言うと、彼は、

「閑白が既に大路の通るべき所に浮橋を架け、また萬両の銀を送つて、各站に厨房を設け、また氣候が寒く日が短いので、道を走つていくこともできず、よく考えて配置したものなので、今になつて周旋することは困難であります。帰つて来られるときに、站を改めて設けることは、できないことではあります」と言い、また、「閑白が、玄琢という国医を送つて陪行するようにするとのことです」と言つた。

十八日 晴。朝飯後に立出する。ただ洪喜男・姜渭浜・李長生・権斌・李浣・李惟洞・趙廷命・鄭漢慎・尹涯・尹愛信

・朴之永たちだけを陪行させ、その他の軍官および樂工・馬上才たちは、閑白が見物したいとのことなので、皆江戸に残留することになった。

越箇谷で昼食を取つた。土方彦二郎・宮城主膳たちが来て、接待のことなどを主管した。ここら【注／糖壁】辺りは皆武藏州の所属であり、閑白の藏入地なので、両処での接待に差し出す物は江戸から来た。

江戸から越箇谷までは三里、越箇谷から糖壁までは三里である。

十九日 朝曇。午後晴。辰の刻（午前八時）に出立し、新栗橋で昼食を取る。此處もまた武藏州の所属で、閑白の藏入地なので、代官伊奈半十郎および三原吉兵衛・小田左兵衛



日光街道地図

<https://japan-city.com/nikou/chizu.html>

たちが、接待のことなどを主管した。午後に大きな浮橋を渡り、夕方に小山で泊まる。

此處は下総州の所属で、関白の蔵入地である。それゆえ伊奈半十郎・土井大炊の子遠江守たちが接待のことを主管した。

当地は皆平原で広漠たる野原であつた。夕方にある人が來て、自ら言うには、「もともと慶州の者で、壬辰の乱に捕られ、今関白の料理人になつたが、用事があつてこの站に来てから数か月になります。使臣がまだ江戸に着かれる七日前に、既に日光遊覧の一行のために、百姓たちを徵発して道路を改修したという。使臣が既に江戸に入られてからは、一層整備して、昨日伊豆守が、また道路を改修したことを探査のために、各站を通過しました。提供の費用は数萬両を越え、今市に新たに数百間の館宇を造るのにも、また萬両の銀子を消費した」とのことであつた。

この言葉が果たしてそのようであるならば、その虚費し

た物力は、数え切れないものであつた。

二十一日 晴。辰の刻（午前八時）に出立して、石橋で昼食を取つた。奥平美作守・設楽長兵衛・伊丹彦左衛門たちが接待のことを担当した。夕方に宇都宮で泊まる。奥平長門守・阿部対馬守たちが接待のことに当つた。此處は皆下野州に所属した地方である。

小山から石橋・宇都宮までは、其れ其れ三里である。

二十二日 晴。朝飯後に出立して、大津の店舎で昼食を取つた。阿部対馬守・鳥室彦三郎・熊沢三郎左衛門たちが、接待のことを担当した。夕方に今市で泊まる。此處は皆上野州地方で、俗諺に三郎が戦死したところと伝えている。水谷伊勢守・市川孫左衛門・深谷喜左衛門・近山与左衛門たちが、接待のことを主管した。

板屋数百余間は、皆新たに造つたものであり、材木は江戸から運搬して、費用は萬余両も要したという。此處は日光から一里余り離れた所であり、思うに一行の人馬が多い

ため、寺の中に入つて泊まることができぬので、麦畑を平坦にして特別にこの館舎を設け、往来する時の宿泊する場所にしたという。宇都宮から大津までは三里、大津から今市までは三里である。

二十二日 朝方晴、食後に雪。日の出に出立し、日光山に入ると、谷間をうずめ尽くし、或るいは高く或るいは低く連なるのは皆仏堂である。いわゆる山菅橋の千年も経た杉が、独特の一つの古跡であった。

義成及び兩僧は、先に門前に行つて待つていたが、我等一行が到着すると、一行と共に二重になつた石門を通つた。垣は、高さが四丈ばかりで広さは半里ばかりでその中に置かれていた。寺の建物たちが何箇所ぐらいなのか分からぬ。垣の外を覆つた家の頭部は、首尾が互いに接しており、脊柱の瓦や軒先の瓦は皆金色をしていた。石門に行つて見ると、我が国の紅門のようなもので、二本の柱は相対して立ち、その周囲はそれぞれ二・三抱えもあつて、八角に作られており、上に横にしてあるのもまた石を用いてあり、高さは五丈足らず、広さは三間に過ぎなかつた。その柱に「筑前州石」と刻んであり、運搬して来るときに専ら水路によれば、幾百里になるか分からず、我等が通つて来たことから計算すれば、水路が百八十余里、陸路が百五十余里である。また内外の三つの庭には、亀の文様に大きい石が敷かれており、長さがそれぞれ織物の物差しで二尺余りで、また筑前州から持つて来たとのことで、その苦労を知ることができる。

また二重になつた銅雀門を過ぎ、いわゆる「權現の御靈屋」に来て見ると、その建物の構造は、まさに関王廟のようであり、其處には伊豆守が公服を着て先に来て待つてい

太平洋戦争開戦76年

主催：2017年12・8不戦のつどい実行委員会

2017年12・8不戦のつどい

《米朝危機と日本の役割》

朝鮮民主主義人民共和国と米国との軍事的緊張が、極限まで高まっています。もし戦争になれば日本が参戦することになる危険性もあります。なぜこのような事態になったのか、日本は何をすべきなのか。現場主義を貫き、南北朝鮮取材82回の講師に熱く語ってもらいます。

日時：12月8日（金）

18:30～20:45

場所：イーブルなごやホール

◇資料代：800円

講師：伊藤 孝司さん

日本写真家协会会员、日本ジャーナリスト会議会员



【ご案内】

第32回 戦災・空襲記録づくり東海交流会

★日時 2017年12月17日（日）午後1時～午後4時30分（午後0時開場）

★会場 戦争と平和の資料館ピースあいち IF
〒465-0091名古屋市名東区よもぎ台2-820
TEL 052-602-4222

★参加費 500円（通信費・会場費。資料代）、

★日程 受付 午後0時（レジュメなどの袋詰め開始は午後0時30分より）
開会 午後1時

○特別報告 報告20分×3
①清水啓介氏（戦争遺跡研究会）「東海軍管区の防空陣地」

②篠崎喜樹氏（岐阜空襲を記録する会）・国 廣由紀さん（愛知淑徳大学4年生）「岐阜空襲アーカイブ」大学生の卒業作品づくりとも連携した、今年の平和展
③馬場豊氏（南山国際中学。高等学校教諭）

「戯曲 捕虜のいた町一城山二郎に捧ぐ」を出版して
○質疑応答（20分）

○交流（90分）▽継承・保存を中心に ▽調査・記録を中心に

★懇親会 交流会終了後（参加費2000円位）

★連絡先 三浦秀夫 0568-83-9878

東南海地震犠牲者を追悼する集い

◆主催

『追悼記念碑』管理団体

医療法人名南会

国民救援会南支部

愛知県平和委員会

◆日時 12月7日（木）3時15分～45分

◆場所 名南ふれあい病院駐車場内：
追悼記念碑前

◆【次第】開会の言葉／管理3団体の挨拶
／来賓挨拶、メッセージ紹介／名古屋三菱
・朝鮮女子労働挺身隊訴訟を支援する会
から連帯の挨拶／黙祷／献花／閉会の言葉／記念写真撮影

※会場 457-0841名古屋市南区豊田5丁目15番18号

最寄りの公共交通機関

▽名鉄電車ご利用の場合＝名鉄常滑線【道徳】駅下車、

徒歩12分

▽市営バス利用の場合・神宮15系統 神宮東門～鳴尾車庫【道徳本町六丁目】下車、徒歩6分

・南巡回 笠寺～神宮東門【三進通二丁目】

下車、すぐ

1980年代『在日』の姿と心情 自らの祖国に生きる主人公

이 영화를 재일본
조선인총련합회결성
30돐에 드린다.

映画冒頭の字幕「この映画を、在日本
朝鮮人総聯合会結成30周年にささげる。」

鑑賞のおすすめ



【その26】

映画『銀のかんざし(은비녀)』
(1985)

朝鮮芸術映画撮影所
総聯映画製作所

伊藤一郎

(朝鮮文化を知る会)

映画『銀のかんざし』は、在日朝鮮人総聯合会（朝鮮総連）の結成三十周年を記念して一九八五年、朝鮮総連と朝鮮民主主義人民共和国（共和国）との合作で制作された。制作会社は、朝鮮芸術映画撮影所、総聯映画製作所。監督は、コ・ハクリム（高鶴林：共和国）、リヨ・ウンガク（呂運珏：朝鮮総連）、オ・ホンロク（吳憲祿：朝鮮総連）、キム・ジョンチ（金政治：朝鮮総連）、コ・フィウン（高輝雄：朝鮮総連）。映画の制作に際し、共和国の映画製作グループが一九八五年二月から約一か月間、日本に滞在した。共和国の映画製作グループの日本での滞在中、映画の撮影において共和国の俳優たちと在日朝鮮人の俳優が共演した。

映画は朝鮮の統一のために二十一年間総聯の愛国活動を行つてきた朝鮮総連兵庫県南部分局 分局長のリム・ジンソク氏を主人公に、一九八〇年代の在日朝鮮人の生活環境を描いている。

主人公の娘のオクチャを演じるのは朝鮮総連の女優キム・チュオ

ク氏である。また朝鮮総連兵庫県

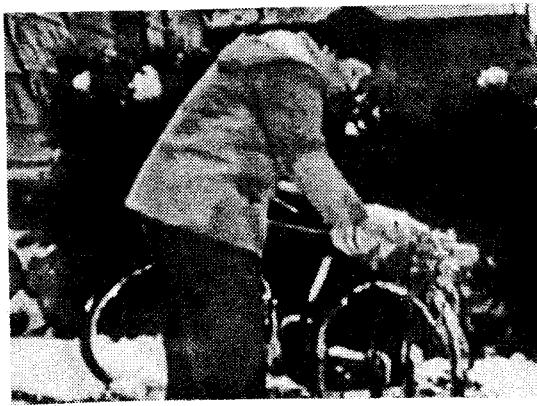
本部副委員長役の俳優は、共和国の映画『花売る乙女』のオツバ役を演じ、映画『名もなき英雄』シリーズ等、数多くの映画に出演していたキム・リヨンリン氏（金日成賞桂冠者、人民俳優、朝鮮芸術映画撮影所俳優団俳優）である。キム・リヨンリン氏は共和国の三大俳優の一人であり、惜しくも二〇一五年六月二十日死去している。

映画で描かれているテーマは、価値が高い人生についてである。価値の高い人生をどのように生きるかについて、日本にいる在日朝鮮人に問いかけている。映画では愛国活動に身を捧げる主人公と資本主義国日本で事業を営む商工人との生活の格差、そして愛国活動に生きる人と資本主義国・日本で普通に生きる人々とが混じり合う在日朝鮮人社会も描かれている。また一九八〇年当時の在日朝鮮人の同胞社会の姿、資本主義社会の歪み中で非行に走る青年の姿もリアルに描かれている。現地も日本で営業している民族衣装店も登場する。

映画を見て印象的なのは、音楽が効果的に使われていることである。随所に挿入される美しい音楽が、主人公との周囲の人々の心情を絶妙に描き出している。主人公の愛国活動には休みがない。交通事故にあって高熱を出しながらも、病身を押して雨が降りしきるなか朝鮮新報を配達する主人公に心が打たれる。資本主義国・日本とのギラギラとした夜のネオンと、その中で愚直に新聞を配達し続ける主人公の姿とは正反対である。一途に愛国活動に励む主人公には様々な悩みがあつた。

一つは親族の病気を気遣い「一か月」韓国に行つたきり日本に帰国できない妻のことである。政治的情な転向を促すために家を訪れた韓国領事館の職員の「北も南も祖国ではないか」という問いかけに對して主人公は「南朝鮮は祖国ではない。アメリカの植民地の現在の南朝鮮が祖国というのであれば、日本は植民地であつた朝鮮も祖国」というのか?」と言い放つ。結局主人公の妻は、その後何十年も日本に帰国できなくなってしまった。

しかし映画が制作された一九八五年と三十年以上経つ現在とは、在日朝鮮人を取り巻く政治的状況も大きく変わってしまった。映画で描かれていたような在日朝鮮人社会とは異なり、ほとんどが日本語で会話がされる。在日朝鮮人が在日のコミュニティーから離れて様々な地域に分散して日本の社会に溶け込んでいる現状において、在日朝鮮人の帰属意識はますます薄れている。



「新聞にかかつた雪を素手で払いながら配達をする主人公。」

貧困にあふれ、親に対する朝鮮人の家庭の一場面。一番私の家庭の朝鮮人として生娘が母の朝鮮人八〇歳の心までに年代の日本社会と日本社会と別に

公を気遣い、朝鮮新報分局長を若い人に譲ることを主人公に提案する。

1.

一九四八年の四・二四教育闘争

後に朝鮮人学校閉鎖令で民族学校

が閉鎖されながらも在日朝鮮人は、民族を規定する言葉を守るために、

現在よりも厳しい絶望的な状況に直面しながらも、文字通り命がけで民族教育を守りぬいてきた。四

・二四教育闘争では十六歳の在日朝鮮人の少年が警官隊の銃弾により死亡している。厳しい財政のな

か、現在も日本の地において幼稚園から大学まで一貫した民族教育

が守られている。

しかし映画が制作された一九八五年と三十年以上経つ現在とは、在日朝鮮人を取り巻く政治的状況も大きく変わってしまった。

今日の在日朝鮮人社会では、映

画で描かれていたような在日朝鮮人社会とは異なり、ほとんどが日本語で会話がされる。在日朝鮮人が在日のコミュニティーから離れて様々な地域に分散して日本の社会に溶け込んでいる現状において、在日朝鮮人の帰属意識はますます薄れている。

物語・朝鮮事情70年

(17)

霸権主義と主権の二つの潮流

第四話／70年戦争～第二次核対決時代

△白旗

朝鮮人民軍の作戦・戦法

朝鮮人民軍の作戦は、米RMA軍の圧倒的火力、その物量に対し、全国・全陣地を坑道化させた。（RMA軍の火力に対抗）

全国に五千か所の地下基地がつくられている。朝鮮戦争時に編みだされた「主体戦法」（外国ではこれを土着戦法と呼ぶ）の一つである。

ミサイルによるディフェンスの強化がなされた。

戦車（天馬216）は、レーダー測定器によつて発射される反戦車ロケット一発を装着している。「中央日報」（韓国）二〇二三・六・二二）は北の戦車がもう技術的に韓国より優位を占めていると報じた。

一七〇ミリ自走砲（五五〇門・

射程距離五四キロメートル）と三〇〇ミリ八管の放砲砲（四四〇門）が公開された。その性能は、今話題の米軍サード基地をも二三〇キロメートルの射程距離で爆破する。

韓国合同参謀本部は開戦後二四時

（前号からのつづき）

間で二三〇万人死傷と予想している。

① 抗日パルチザンの革命闘争に始まる。

ノドンと呼ばれる地対地ミサイル、対空携帯ミサイル（訪朝した米アーリストに示したという）等、人民軍のディフェンスの力は坑道の守りからミサイル化している。

ハリネズミの守りからクマ蜂の反撃へと進化した。

在米韓国問題研究所の韓浩錫氏は、朝鮮人民軍は開戦となれば、七二時間で韓国を制圧する能力を持つとの論文を発表している。

戦争と革命意識

RMA軍の技術力と物量の圧倒的優勢に抗する朝鮮人民軍の最大の長所は、革命意識にある。

郷土の防衛と祖国の統一を戦争目的にする軍隊の特性をもつ。かつて日本のアジア侵略軍も、祖国の独立を願うアジア人民の武力に敗れた。

現在の戦争でも、「国際正義、国際秩序、民主主義」の名のもとに進行する大国の侵略と武力干渉は地元のレジスタンスに遭遇している。

朝鮮人民軍の意識性の源泉は、

言語に絶する抗日十五年の苦闘の中に生まれた革命の伝統が根幹となる。人民軍の創軍は一九三三年となつていて、

『抗日パルチザン』のように学び、生きる』ことは現在の朝鮮のモラルと化している。

② 朝鮮戦争の三年間、世界最強の米軍との死闘で不屈の革命意識を身につけた。

歩兵銃を以つて米軍機を狩り、スコップだけで陣地を坑道化して空爆と火砲をしのぎ、いまだに経験したことのない現代戦を勝ち抜いた恐るべき奇跡を生んだ。

独立国家の創建後わずか二年、軍事訓練もろくに受けず、現代戦の実戦経験もなく、識字率二割の農民軍兵たちの意識とは、祖国防衛、南北統一の革命意識であつた。

意識の核心には抗日十五年の金日成ゲリラ隊長への絶大なる信頼があつた。

全人民、全軍人の最高指導者を中心とする、かつての世界の軍事思想にも見られない異質の軍隊の思想である。

③ 朝鮮人民の意識の高さは過去の自国の歴史に対する認識の劇的変化にも関連する。植民地時代の歴史観の克服がある。一例として、高句麗の隋・唐との戦争があり。隋との戦争（五九八～六一四）では、乙支文徳將軍、隋の煬帝軍三百万を退ける。

唐との戦争（六四五～六六二）では、淵蓋蘇文（ヨンゲソムン）将軍等によつて完勝する。ヨンゲソムンは『日本書紀』にもイリカスミと記述されている。このような事故の歴史を民族的誇りとなし、力として昇華させた。

古代兵士も示す闘争精神

古代より兵士が示す勇気や闘争精神こそが勝利を約束する要件であつた。

古代ギリシャ戦争の原動力による兵士の勇気を、ホメロスのトロイとギリシャ両軍の戦争叙事詩は伝え、個々の兵士が示す勇気や闘争精神が勝利をもたらすとした。

高い規律を維持するスバルタ教育なるものは今にも伝わる。

古代ローマ帝国の市民軍の軍規、

献身性、軍事的栄光欲について、去るマキヤヴエリは考察している。

ローマ帝国で実践された「十

分の一処刑」は敗北した部隊の十分の一をくじ引きによって処刑したという。まさに死地に向かう兵士たちの士気をたかめる訓練規律は伝統的に苛酷なものとなつた。

しかし現代の戦争において、かつて見られなかつた士気が創出された。ベトナム戦、朝鮮戦の人民の兵士たちの士気は高かつた。

戦争における新しい性格を持つ

軍隊の出現である。自らの意思で戦う武力は帝国主義の軍隊を退けた存在となつた。

ベトナム戦を指揮した米国マクナマラは、戦後ベトナムの軍幹部らと交流している。彼の関心はベトナム軍の力の秘密を知ることにあつた。聞き出せたのは、『南ベトナム解放まで戦つもりだつた』という答えでしかえられなかつた

という。

米軍の戦略家たちはその後の研究に孫子兵法や毛沢東の戦争論に關して研究を始めている。

ヨーロッパ流合理主義では理解できないアジアの戦争論に関心が退してしまつてゐる。

向けられている。

その成果の一つとして『現代の

軍事戦略入門』（エリノア・スローン）。

孫子の兵法に関心が向けられた

が、朝鮮戦争論、ベトナム戦争論

に至つてはみるべき研究成果をあげていない。

世界最強の米軍を迎撃つ朝鮮

人民軍の戦いは、史上類例のない

新しい戦争方法論を見せつけるで

ある。

「アメリカには勝てない」との常識論から、一步踏み出して、アジアの戦争を考えるべきである。

「天地には己れほど強く美しい

ものはいないすべては思いのままだとおごり、神を敬うこと忘げていない。

またおごり、神を敬うこと忘れた」米国のバベルの塔は、朝鮮の地には建つていてない。

しかし、この映画で描かれてゐるのは、三二年前の変わらない在日朝鮮人社会が抱える普遍的な課題である。日本と朝鮮の政府レベルの政治的、経済的な断絶を解消するのは名実ともに非営利の市民の力である。共和国の名優と在日朝鮮人の俳優が日本の地で再び共演する日のために、日本と朝鮮両国の市民とともに前進していくたい。

『銀のかんざし』が制作された当時のような両国に住む映画人の交流は不可能となつてゐる。

（注1） 김정일, 『연어와 민족문제』 (1999), 조선로동당출판사

（参考文献）
『조선민족과 사회 28권』 (1999), 조선민족사학연구원
映画制作からこれまで三二年、
『조선민족과 사회 28권』 (1999), 조선민족사학연구원
時流は不可能となつてゐる。

（注2） 김정일, 『연어와 민족문제』 (1999), 조선로동당출판사
日朝関係は国交正常化の前進が見られる時期もあつたが、現実は後退してしまつてゐる。

スコットランド
スコットランド

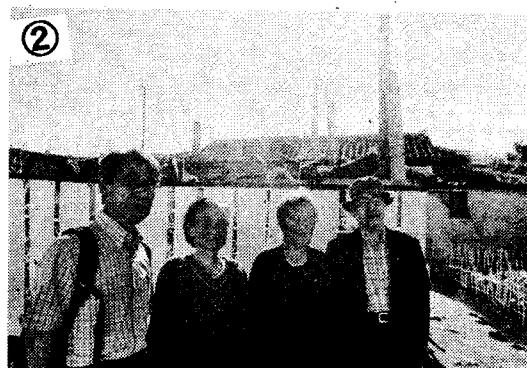
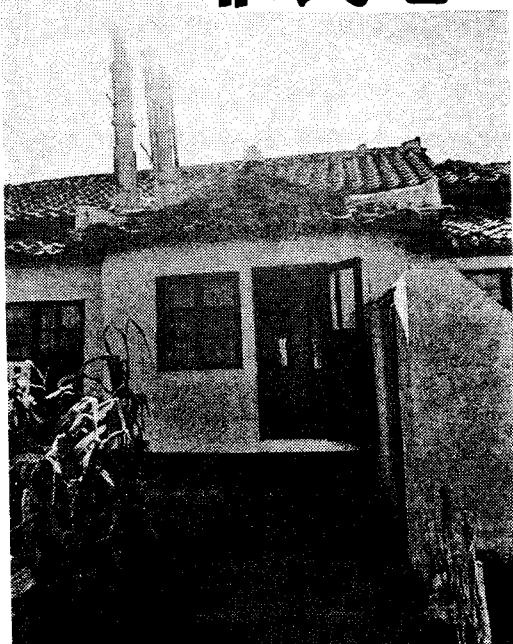
ハン 植民地の恨を聞く

—咸鏡北道の旅から

平田 賢一

（朝鮮文化研究会）

【写真】



①慰安所跡地（現在の清津市羅南区豊谷洞）に残っている富士見楼の一部と思われる建物。②同じく慰安所跡地にて。話をしてくれた住民のハルモニと。③の建物と④の背景の建物は違う建物ですが、近い位置にあります。富士見楼の一部というものは本文でも紹介している宋連玉・金榮編『軍隊と性暴力』の記述に拠っています。この跡地は当時「山」と俗称されていた「美輪之里遊廓街」です。

日（八月二九日～九月一日）の旅が実現した。

咸鏡北道については漠然とだが、同じく地方といつても、これまで行つた開城や元山などよりは寂れているのではないかという印象をもつっていた。しかし、今回の旅で、人口八〇万、朝鮮で三番目に大きい都市という清津をはじめ、鏡城・漁郎・七宝山などを訪れたが、これまで行つた開城や元山などの地域とほぼ同じような印象をもつた。人びとの様子、街並み、道路状況、農村風景など、いずれについても、そうである。

二〇一〇年九月、朝鮮民主主義人民共和国（以下、朝鮮と略す）を初めて訪れた。以来、毎年訪朝の旅を続けて、今年で八年目になる。平壤を中心に開城、板門店、唯一の定期便である平壤・漁郎間信川、南浦などへも行き、一昨年のフライ特急を利用することであります。ようやく東海岸の元山へ、そしてた。火曜日と金曜日の週二度の便昨年は元山経由で金剛山まで足をであるが、これを利用すれば、大

延ばすことができた。しかし、平壤より北の地方は未踏の地で、是非とも行きたいと願つてきた。そこで考えたのが、現在国内線勢の団体ではない少人数でも北東部の咸鏡北道に行けそうだ。

そして、咸鏡北道の旅では、対文協の方々以外に現地ガイドとして、咸鏡北道の対外事業部などの方々のお世話をなつた。日本人がこれまでこの地を訪れたことはあまりないらしく、日本人と会うのは二度目という方と初めてという方々であつた。また、対文協の方々にとつても仕事として、七宝山に行くのは初めてということだつた。しかし、食事をしながら、お互いの家族のことを持ちたりするなど、楽しい旅になつた。旅を終

話をしていて、そのご尽力を得て、今年の訪朝（八月二六日～九月二日）の旅の後半、咸鏡北道での三泊四

えて二か月近くが経つが、さまざまなことが頭の中を去りつつある。その中でも一番印象に残っていることをここに書き留めておきたい。

咸鏡北道は日本統治下の時代、満洲侵略の拠点となつた所で、植民地期の遺構が比較的多く残つてゐる地域と聞いていたので、参観希望地として、清津市内の「慰安所」の跡地（羅南と芳津の二か所）を挙げておいた。この跡地は、宋連玉・金栄編著『軍隊と性暴力』（現代史料出

版、二〇一〇年）の第一章「咸鏡北道の軍都と「慰安所」・「遊郭」」や朝鮮取材の第一人者伊藤孝司さんのルポで詳しく紹介されている所である。当時、羅南には朝鮮北部の警備のための十九師団が駐屯して、この地域には多くの「慰安所」があつたという。都合で芳津の方には行けなかつたが、羅南に残る「慰安所」跡地は訪れることができた。それは街に志願することなどありえない、はずという印象の場所にあつた。伊藤博文は安重根に殺されてよかつたなど、植民地の恨が一気に語られた。ファンさんの憤激の思いの一部だけが残り、周囲は住宅地になつていた。

現地ガイドからの「慰安所」についての説明を受け、保存されている一軒の家（現在は住宅）の中にも上がりさせてもらつた。入口の一間だけが、ほぼそのまま残されており、かつての「慰安所」を彷彿とさせる間仕切りの跡があつた。幅は何と六〇センチ！ という狭さである。見学を終え車に乗りこもうとしたところ、「私の話を聞いてください」とおばあさん（ハルモニ）から声をかけられた。

見学している途中から、住民たちが我々一行に視線を向けていたことに気づいていたが、呼びとめられた時、周囲を見るとすでに大勢の住民が集まつていて了。

そのハルモニ（ファン・ヨンヒさん、七九歳）の話は、性奴隸（朝鮮では「慰安婦」のこと）をこのように表現する）の問題は解決されていらないという言葉から始まった。付言 日本の植民地期の咸鏡北道について、最新の研究として、日本政府が性奴隸の問題について謝罪し、補償するのを見て死にた加藤圭木『植民地期朝鮮の地域変遷』（吉川弘文館、二〇一七年）があつた。彼女たちの痛烈な言葉を聞きながら、植民地体験の恨の深さを思うとともに、朝鮮在住の「慰安婦」について、日本政府が何の補償もしてこなかつたこと

に改めて怒りを感じた。

道については、最新の研究として、日本政府が性奴隸の問題について謝罪し、補償するのを見て死にた加藤圭木『植民地期朝鮮の地域変遷』（吉川弘文館、二〇一七年）があつた。彼女たちの痛烈な言葉を聞きながら、植民地体験の恨の深さを思うとともに、朝鮮在住の「慰安婦」について、日本政府が何の補償もしてこなかつたこと

に改めて怒りを感じた。

このように率直な生の声を聞くことになつたこの出会いはまつた

く予期しないものであつた。今から思えば、動画を撮らなかつたこ

とが残念であるが、最後に、お二人のはenoura.hirata@gmail.comに

ご連絡ください。

最後に朝鮮の未来を感じた経験を一つ書いておきたい。清津では

ほど、ファンさんの話はとどまることがなかつた。そして、日本は

二〇一二年二月にリニューアルし

ドイツがナチスの犯罪行為を反省した道立の図書館を訪れた。

コンピューターが整備され、その

したことを見習つてほしいとも話された。彼女の話が終わるや、もう一人のハルモニ（リ・ジョン才

クさん、八四歳）が、ファンさんが私の言いたいことは言つてくれたと言ひながら話し始めた。リさ

ムは、今でも日本という言葉を聞くと震え、日本人を殺してし

もあつたからか、放課後の子どもたちが大勢来ていて、とても賑わつていた。子どもたちがコンピューターに向かつている姿を見ながら、この国の未来を想つた。

朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤンからの
通信



【編集者まえがき】 本「論評」欄は、我が国とは未国交状態にある朝鮮民主主義人民共和国の立場や日朝関係を含む諸見解を理解できるよう、同国の对外文化連絡協会（ピョンヤン）から日朝協会愛知県連（名古屋）に直接送られる情報・資料をそのまま紹介する欄です。

過去の清算の責任から 絶対に逃れられない

朝鮮对外文化連絡協会

最近、国連人種差別撤廃委員会は日本軍性奴隸問題に関する適切な賠償など包括的な解決を求める機構の勧告に対する日本政府の回答内容を公表しました。

それによると日本政府は「サンフランシスコ講和条約などによってすでに解決された」と回答しています。

機構が責任のある者を裁判に付するようにと勧告したことに対しても日本政府は「今から具体的な検証をするのは難しい」とい

ながら責任のある者に対する追究は考えていないという立場を明かにしたとのことです。

日本が最良の方便として使っている一九五一年九月のサンフランシスコ講和条約（対日单独講和条約）は、アメリカが日本を撃滅する戦争に直接参戦した朝鮮やソ連、たのです。日本が賠償問題は解決されたと主張している根拠とはこれです。

中国をはじめ諸国の参加なしでつち上げた完全に不法かつ侵略的な文書です。

アメリカは加害者である日本がスコ講和条約が締結された後、外務省の声明を発表して条約の不法性を暴露し、条約は無効であり、認めないというのを宣布しました。

いつかアメリカのある新聞は次のような記事を掲載しました。

「国際法にはいずれの国も日本が『慰安婦』事件で犯したような重大な人権蹂躪および人道主義法違反行為を行った場合、その政府が行為について調査し、責任のある者を起訴し、被害者に充分な補償をし、再発を防止しなければならないと規定されている。日本はサンフランシスコ講和条約で賠償問題が最終的に解決されたと主張しているがそのような解釈は法律的に考察する時、正しくない。」

これはサンフランシスコ講和条約が不法であり、したがって日本がこの条約を口実に賠償問題解決を云々すること自体が間違っているということです。

日本が過去に犯した性奴隸犯罪は絶対に許されない特大型反人倫罪悪であります。

それがゆえに当然ながら性奴隸犯罪行為に対して明確に調査しなければならないし、責任のある者を法的に処理すべきであります。

しかし日本はそんなことを全く考えてもいません。

かえって性奴隸被害者を「売春婦」に、彼女たちの性奴隸生活が官権と軍権によってではなく金儲けのための「自発的な意思」によるものであると冒流しています。性奴隸犯罪を正当化、合理化したあげくに犯罪の歴史そのものを全面否定しています。

日本が性奴隸問題がすべて解決されたと掲げているのがまた一つあります。それは二〇一五年に南朝鮮当局を懐柔、欺瞞して作り上げた合意ではない「合意」であります。国際法によつて責任のある者を処罰もしなかつたし国家的な責任も認めず、謝罪もまともにしなかつた状態で、はした金をなげつけたり上げた詐欺文書をもつて性奴隸問題の完全な解決を騒いでいます。

日本が無理を通しているのは單なる特大型反人倫犯罪を犯した戦犯国であるという羞恥を隠して表れています。

みようということだけではあります。せん。

そこには帝国時代を復活させてかつて達成できなかつたアジア制覇野望をかならず実現しようという魂胆が潜んでいます。

日本は特大型反人倫罪悪で血まみれた過去の歴史を否定し、「普通の国家」の帽子をかぶつてみようとしています。

しかし、過去を清算しない限り戦犯国の責任から絶対に逃れません。

外信によりますと、国連人権理事会は日本軍性奴隸問題に対する処理に焦点を合わせて各国の意見を聴取することを内容とする日本人权状況調査実務グループ会議を五年ぶりに召集する予定であるそうです。

国際社会は特大型反人倫犯罪を犯していたにも関わらず、謝罪を知らない日本に厳しい目線を向けていますし、非難の声を高めています。

日本は自國のためにも過去の清算の責任から逃れてみようという見苦しい仕草を止めなければなりません。

安倍9条改憲NO！ あいち市民アクション キックオフ集会 12・17

3000万の声を届けよう！

■講演 香山リカさん
(全国市民アクション発起人・精神科医)



「安倍改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」

■3000万署名にむけて活動交流

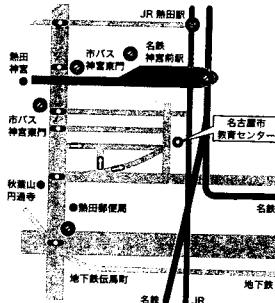
2017年12月17日(日)

14:00-16:30 (13:30開場)

名古屋市教育センター

(名鉄神宮前駅から南へ約5分 地下鉄伝馬駅2番出口から北東へ約5分)

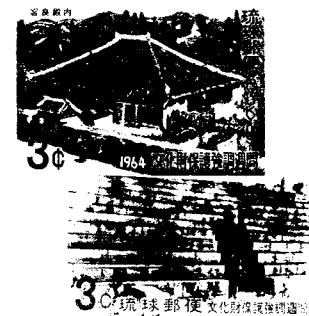
資料代
500円



手をつなぎ、未来につなぐ。

今年9月、著名人19氏の呼びかけによって、「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が発足しました。人口の4人に1人にあたる3000万人から署名を集め、改憲反対の搖るがぬ世論をつくれば、改憲発議を阻止させることは可能です。

安倍9条改憲反対の一点で手をつなぎ、野望をくいとめるための「あいち市民アクション」のキックオフ集会に、ぜひご参加ください。



一九七三年八月三十日
琉国政厅副主席室

「ヤア、大宜見さん。急に呼び出してしまつて申し訳ないん。だが、ボクの専門外の事なんで、君に来てもらつたんですヨ。マア、どうぞ座つて下さい。」

英雄が入ると、宮平副主席は待ちかねていた様に、すぐに席をすすめた。

「イヤア、琉国になつてから、副主席も二人体制になつて、砂川さんが副主席に指名されて頑張つてもらつているんだけどサ。それでも、こなきなればいけない事は、以前の倍以上に増えたんじやないかと思つてゐるよ。とにかく、ボクではどう対応していいのかと迷つてしまふ事もあつて困つてゐるんだ。」

宮平は、最初から、英雄に自分の苦手な（？）面倒な分野を引き受けでもらおうという姿勢を、隠そともしないで言う。本当に困つてゐるんだろうかと思える程、明るい表情で話を切り出してきた。そのいつも明るく前向きなところが、みんなに愛されていて、副主席の激務をこなしていく原動力なのかもしれない。

それに、英雄達はこの宮平副主席に大きな負い目とも言える

琉
國
物
語
⑩
金城博己（琉球人）

ものがある。大里主席を中心に琉国独立の計画を着々と進めてゆく中、琉球民政府の副主席という立場にありながら、宮平には知らさずに、少数の大里主席の取り巻きと砂川を中心としたメンバーだけで、根回しや情報のやりとりなどをしてきた事実もあつて、独立当日までまつたく宮平は気が付かずにいた。その後、宮平がおおいに腹を立てたのは想像にかたくない。しかし、大里主席からは、何故知らさなかつたのかと、ていねいに説明されて、どうにかおさまつてくれたという事もあつた。実際のところ、宮平副主席のこのあけっぴろげで、明るい性格では隠し事などできそうも無いだろうという事が、その始まりであつたのは、みなさんにもご理解して頂きたい。

「今ネエ、台湾から来ている女性が琉国に相談というか、お願ひがあるという事なんだけれど、商売がらみの話らしくてサ。大宜見くん、君にボクの代わりにお会いしてその女性のお話を聞いてもらえんかネー。台湾相手というか外国人との話はサ一、どつてもデリケートに扱わぬといけないもんだからサ。ボクが相手すると、イイよ、イイですよ、に、なつちやうかも知れないんで、どうにか君に相手を頼みたいんだ。」

まあ、予想通りの事なので、英雄は心の中で苦笑いしながら、「分かりました。いつ、お約束されてるんですか。とにかく、外國の方をお待たせしてはいけないと思ひます。」

「ウン。できれば明日にでもお会いしてもらいたいんだけど。

見出し上=琉球郵便切手（一九四五年米軍占領時から一九七二年五月の「本土復帰」まで、琉球で発行）【上】宮良殿内 1964 文化財保護強調週間 【下】仲宗根豊見親墓 文化財保護強調週間

どうですかネ。」

「エツ、明日？と思ひながらも英雄の頭には、すぐに洋子の事が浮かんだ。（宮城さんにも一緒に会つてもらおう。彼女なら何か良い提案もしてくれるかも知れない。）

そういう思いが先なのか、久しぶりに洋子に会いたいという思ひが強いのか、英雄は自分で自分の本音を計りかねている。そのあとすぐに、琉球大学にいた洋子に連絡がつき、洋子も快く引き受けてくれて、翌日、政府の応接室で英雄と一緒に、その台湾の女性の来訪を待つた。

「宮城さん、どうですか学校の様子は。」

英雄が琉大内の様子を尋ねると、

「はい、正直に言つて勉強は大変ですけど、楽しいですね。情報も経済も数学の方式を解くようで、いろいろな関係やもつれをほどいたりすると、なんだか答えが出でてくる様な気がしますね。時々意外な方向から、答えの様なものが見えてきたりして、とっても面白いんですよ。」

洋子の返事は、英雄の問いかけとは違つた返事の様な気がするが、英雄には、洋子が大学生生活を充分に楽しみながら過ごしているのが見える。そういう会話をしている内に、ドアの前に少し小柄な女性が立つていて、時間どおりだ。政府の応接室のドアは慣例として開放したままということになっている。

「蔡さんでしょ？ どうぞ、お入り下さい。」

英雄が立ち上がり、ドアの傍まで行つて声をかけた。察さんにも腰掛けてもらい、お互に自己紹介を終えた。

蔡惠華。年齢は三〇を過ぎたばかりかなと思えるが、女性の年齢を説明するのは、国が違つても得策ではないだろう。なかなか、お互いに口が開かない。よく考へると当然なのかもしない。女性が一人で、しかも、小さくはあるが、琉国という、いまや一国の政局の部屋で、交渉相手にしては少し若い男性と、それに輪をかけた若い女性を前にして、少し勝手が違う様な気がするには、しようがないだろう。

「蔡さん、どうぞお茶を召し上がつてください。」

洋子がすすめると、察は一口お茶をすすり、

「アッ、このお茶はジャスミン茶ですね。」

「このお茶は、多分私が台湾から持つてきて琉国で販売してもらっているジャスミン茶だと思います。こういう席でもお使いいただき、大変嬉しい思います。（ジャスミン茶は琉国のサンピン茶に似ているがサンピン茶よりも香りが、心地よい）蔡惠華は、ほこんだ表情になつた。それにしても流暢な日本語だ。

「蔡さん、今日はどういうご用件でいらっしゃったのでしょうか。」

話しゃくなつた気がして、英雄も单刀直入に本題に入ろうとした。蔡も、気が楽になつてきたのか、

「まず最初に、台湾の状況を説明しませんと分かりにくいと思いますので、それからお話をさせて頂きます」と、ひと呼吸し、

気をあらためる様にして話を続ける。

「台湾の関税は、自國の産業を守るために、外貨、もちろんドルの事ですが、その流出を防ぐため、輸入関税率はとても高く設定されています。いわゆる、保護貿易と言うのだと思いますが、そのため私達庶民にとっての生活必需品と言つてもよいような、外国産の薬品や化粧品なども税率が高く、輸入製品はとても高価になつています。その外国製品とは、分かり易くいうと、日本製という事です。もちろん、台湾の国産薬品、化粧品も生産されていますが、残念ながら台湾国民からの人気と信頼性という事では、現在の段階で、日本製の足元にも及びません。

台湾の政府としてもどうにかしたいと、考へているようです。が、実際には、そういつた商品を関税率の引き下げ対象にすればよいのか決断しかねている状態だと、政府の方からお聞きしています。」

（次号につづく）

